

# 「免疫療法が一日も早く“保険適用になる”ことを願っています」

## 免疫療法（高活性NK細胞療法・免疫細胞療法）を受けた患者さんの手記

ニューシティ大崎クリニック提供

### 手記1 KMさん、39歳

の腫瘍が2つ、リンパにも3cmの腫瘍が2つ転移していたのです。

担当医は標準治療だけを勧め

きて、「35歳以下の若年性乳がん

は全体の2・7%なんだよ。この

ままだと5年先はこの世にいない

と思う」、「抗がん剤治療をしても

腫瘍がこれだけ大きいから絶対に

CR（完全奏功）にはならないと

思うよ」と宣告され、絶望の淵に

突き落とされて、目の前が真っ暗

になり、途方に暮れてしまい、ガ

クツと力が抜けてしまいました。

そんな時、どんな事があっても

決して諦める事のない強い母の勸

めで、NK治療の事を教えて貰っ

たのです。私はよく分からず、半

信半疑でしたが、母を信じて薬を

も掴む思いで、この治療に一縷の

望みを託しました。

高活性NK細胞療法は、元々自

分の体にある弱ったNK細胞を活

性化して打っただけなので、副作用

もなく安心でした。標準治療だけ

を選択した患者さんの壮絶で地獄

のような、副作用でのた打ち回る

苦しみを目の当たりにしました

が、私は脱毛以外の副作用は全く

出ませんでしたので、つくづくNK

K治療と併用して良かったと心の

底から思いました。その後も腫瘍

はどんどん縮小していききました。

そんな中、自分で意識的に標準治

療のみの時とNKを併用して治療

した時とでは、腫瘍がどちらがど

のくらい縮小するかを知りたく

なりました。そこで、数カ月かけ

て比べてみた結果、NKを併用し

て治療した時の腫瘍の縮小度が標

準治療だけの時よりも約10倍も縮

小していたのです。標準治療だけ

の時は原発巣が2mmしか縮小され

ないのに対し、NKと併用して治

療した時は、原発巣が2cm以上も

縮小していたのです。その後も乳

房の腫瘍の1個とリンパの腫瘍の1個も消失していたのです。

8回目のNK投与後にMRIや超音波で検査した結果、担当医に「腫瘍が見当たらないですね。手術しましょう」と言われ、手術の当日まで計11回NKを打ち続けま

した。そのお蔭で、手術後、担当医が母に「開いてみたら、とても綺麗でビックリしてしまいました」と不思議そうな顔をして言っていたそうです。その上、病理の結果はpCR（病理組織学的消失）。脈管、リンパ管、全てにお

いて細胞レベルでもがん細胞は見当たらないとの事でした。本当に今でも信じられないくらいの夢のような結果でした。自らのNK細胞を活性化させる事で、がん細胞

に対する殺傷能力を強め、本来の自分の力でがん細胞を消失させるNKの治療法は、改めて最も副作用の少ない安全で革新的な信頼できる治療法なのだとか実感しました。今では、担当医から「p

CRになった秘訣を是非教えてください。手足の痺れが全く出ないという人は初めてみました」と言

われています。

現在の私は、すっかり良くなり、

忘れもしない2015年3月頃、胸に違和感を感じシコリを見しました。しかし、当時授乳中だった私は、乳瘤だと思い込み「子供に母乳さえ飲ませていけば、いつかは自然に消える!」という昔から言い伝えられていた伝説的な言葉を鵜呑みにしていたので、特に気にも止めていませんでした。ところが、それから2カ月くらい経つと、体調が悪くなり、動く事も食べる事もできなくなりました。そんな私を見るに見かねて、母が毎日献身的な看病をしてくれ、食事もバランス良くつくってくれました。母のお蔭で少しずつ食べられるようになり、徐々に歩けるようになりました。その後、直ぐに母に病院へ連れて行かれ、検査を受けると乳がんである事が判明しました。しかも乳房に4cm

自分がかん患者である事を時々忘れてしまうくらいです。これからも再発予防のためにNKを投与し続け、免疫力を高めていきたいと思っています。

こんなに素晴らしい免疫療法が、保険適用になることを私は切に望んでいます。今は保険適用ではないため、高額な医療費がかかっています。NKを投与したくてもお金がなく受けられない人があまりにも沢山いるという事は悲しすぎます。誰もが受けられるシステムに一日も早くなつてほしいと思います。そうなれば、かけがえない尊い多くの命が助けられるはずなのですから……。

手記2 SCさん、71歳

多くの人が、自分がかんと闘わ  
りがあるなんて考えてもいない様  
に、私もそのうちの一人でした。

今年（2017年）古希を迎え、  
今から17年前の53歳の時でした。  
健康診断で乳がんが見つかりまし  
たが、その時は全摘手術のみで済  
みました。どこにも転移は見られ  
ず、抗がん剤治療もなく、もうこ  
れで終わりと思っていました。が、  
2年半後に肝臓に転移しているこ

とがわかりました。自覚症状もな  
く、強いて言えば、疲れを感じる  
ことはありました。肝臓に転移し  
たことはとても深刻な事例だつた  
そうです。

元気に日常を送っていたのに、  
これは困ったことになったと思っ  
たものの、いよいよ抗がん剤治療  
になつてしまうのかと不安になり  
ました。抗がん剤治療がどういつ  
たものかわかりませんが、その当  
時の私の中には、いろいろと副作  
用があり、悪いイメージしかあり  
ませんでしたが、それを避けよ  
うと思ひ、何か良いものがないか  
と調べ始めました。その時に、現  
在も続けている免疫細胞療法に出  
会いました。

説明会にも参加して、理解でき  
たことは、採決した血液を2週間  
かけて培養し、100億個に増や  
した細胞を体に戻しがんを殺すと  
いうことが、素人なりに明快に理  
解することができました。ほかに  
もいろいろと説明はありました  
が、これが一番私にはわかりまし  
た。副作用の心配もありませんし、  
それどころか投与日にはポパイの  
ように元気の素を大量に注入して  
もらつたと思えて、気持ちも元気  
になるようです。

先ほど申し上げた肝臓転移の治  
療は、やむを得ず抗がん剤を使う  
ことになりましたが、免疫治療も  
一緒にやりましたので、医師も驚  
くほど早く消えて治すことができ  
ました。私の場合、副作用は全く  
ありませんでした。抗がん剤治療  
の予定があるときにも、日程を見  
計らつて免疫治療を行い、免疫検  
査で常に一定以上の免疫力の高さ  
を維持していることがわかりとて  
も安心でした。肝臓の転移が消え  
て、その後再発が全くないまま今  
年（2017年）で12年になりま  
す。実際に抗がん剤治療を受けて  
いても、周りの人たちは本当に病  
院に通っているようには思えない  
と、いつも元気である私を見て驚  
いています。抗がん剤治療だけだ  
としたら、免疫力も低下し、少し  
づつ体が弱つて、心も挫けそうに  
なつてしまふでしょうが、免疫力  
の高さを保つていければ、普通の生  
活を送ることができ、病気に打ち  
勝つ気力も出てくる今の免疫療法  
をありがたく感じているところで  
す。

この先、またなにかあるかわか  
りませんが、私には強力な武器が  
あると思つて、平穩に日常生活を  
送っています。

フラミンゴ 紅鶴  
田中博子 著 日本文学館  
1000円（税別）

紅鶴とは、フラミンゴのなかでもベニ  
イロフラミンゴをさすのだからか。水辺  
にいるときは片足で立っているが、これ  
は体温を奪われにくくするため。その足  
は強アルカリの水質に耐えられるとい  
う。

著者も、フラミンゴのようにすらり  
と背が高く自分の夢を実現するために頑張  
る意欲的な女性だった。夜間の音楽学校  
に通いながら、アルバイトに精だし、ス  
ポーツジムにも通うという多忙な日々  
のなか、太ももの筋肉に引っかき痛みを覚  
えるようになる。痛みが限界にきたので、  
近くの整形外科で検査したところ、大学  
の医療センターへ行くようにと指示され  
た。

これ以後、予想すらしていなかった病  
気との闘いが始まるのである。病名は骨  
肉腫。辛い化学療法を経て手術して退院  
するも、まもなく肺に転移。切除後、今  
度は骨肉腫の再発。この頃、励ましてく  
れていた股人とも別れ、気分は落ち込  
む。ついに股関節からの離断手術を受け  
る。「私って片足でふんばっているフラ  
ミンゴみたいでしょ」と友に笑つて話  
すまでになった。しかし、義足をつけて  
のリハビリテーションは思うように行か  
ず、心療内科にも通うように。さらに、  
検診でまた肺に影が見つかり、泣き崩れ  
てしまった。

左肺底区域を全摘後、免疫療法を知  
り、高額ではあったが受けることを決意  
した。「あれから五年。約二年刻みに再  
発転移を繰り返してきた私の中の不良細  
胞達が免疫療法自家がんワクチンを受け  
てからすつかりおとなしくなった。この  
免疫療法が保険適用され、がんにも苦しむ  
多くの方が治療できたらたくさんさんの命が  
救われるのではないかと」と、著者  
は結んでいる。（評者 中島由紀）

